

さめうら
「早明浦ダム再生事業」の事業着手について
～水資源機構として初のダム再生事業スタート～

本日、「早明浦ダム再生事業に関する事業実施計画」が国土交通大臣の認可を受けましたのでお知らせします。水資源機構では、この認可を受け、4月1日付けで池田総合管理所に「早明浦ダム再生事業推進室」を設置し、同計画に基づき早明浦ダム再生事業に着手いたします。

本事業は、3月27日付けで国土交通大臣により決定された吉野川水系における水資源開発基本計画の一部変更に基づき早明浦ダムの改築を行うもので、貯水池の容量振替や予備放流方式の導入により洪水調節容量を増大させるとともに、洪水時の放流能力増強のため放流設備の増設等を行うことにより、ダムの治水機能の向上を図ることを目的としています。

事業の実施に当たっては、現在運用中の早明浦ダムの管理を適切に実施するとともに、関係機関との調整を図りつつ、事業の計画的かつ的確な実施に努めてまいります。

(参考)

○早明浦ダムは、昭和50年より水資源機構が管理する「四国のいのち」とも呼ばれる四国最大のダムで、吉野川の治水と四国4県の利水を目的に建設され、吉野川総合開発の中核となる多目的ダムです。

○水資源機構ウェブサイト

<http://www.water.go.jp/honsya/honsya/index.html>

平成30年 3月30日



独立行政法人 水資源機構

発表記者クラブ

国土交通記者会

水資源記者クラブ

高松経済記者クラブ

問い合わせ先

独立行政法人 水資源機構 総務部広報課 かわい いしやま 河合、石山

住所：埼玉県さいたま市中央区新都心11-2

電話：048(600)6513

早明浦ダム再生事業の概要

事業箇所 高知県長岡郡本山町（左岸）、同県土佐郡土佐町（右岸）

目的 洪水調節

容量振替及び予備放流方式の導入により、現況の洪水調節容量を9,000万 m^3 から10,700万 m^3 に増大させるとともに、洪水時の放流能力増強のため、放流設備の増設等を行うことにより、治水機能の向上を図る。

※容量振替は、現状の利水安全度を確保しつつ、不特定補給の運用を見直すことにより容量を確保することをいう。

※予備放流方式は、洪水が予想された時点で、あらかじめ放流を行うことで貯水位を下げ、洪水調節容量を洪水調節計画において確保することをいう。

諸元

形式 : 重力式コンクリートダム
ダム高 : 106m
堤頂長 : 400m
総貯水容量 : 31,600万 m^3
有効貯水容量 : 28,900万 m^3
集水面積 : 472 km^2
(汗見川取水55 km^2 含む)

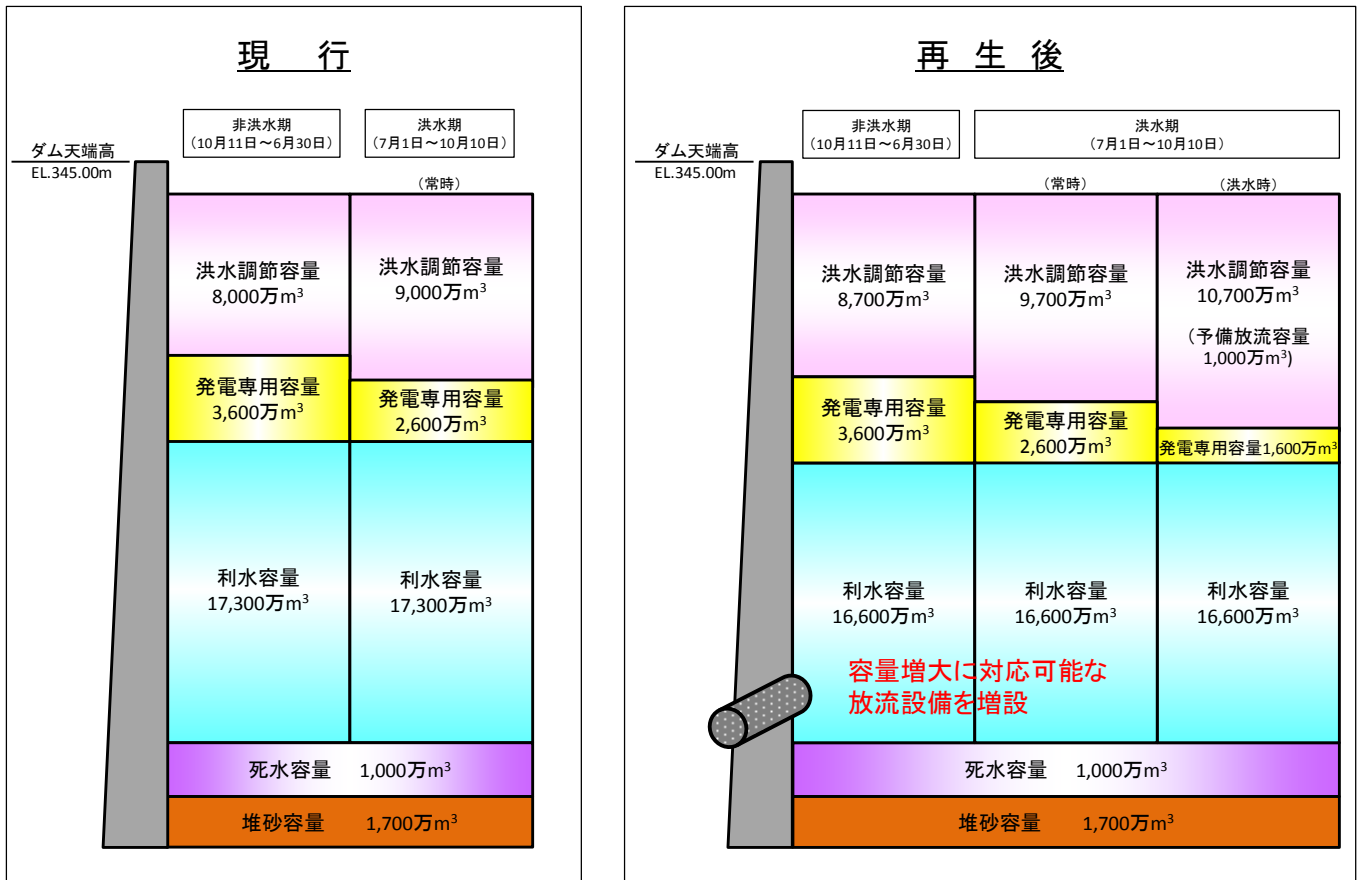
総事業費 約400億円

工期 平成30年度から平成40年度までの予定

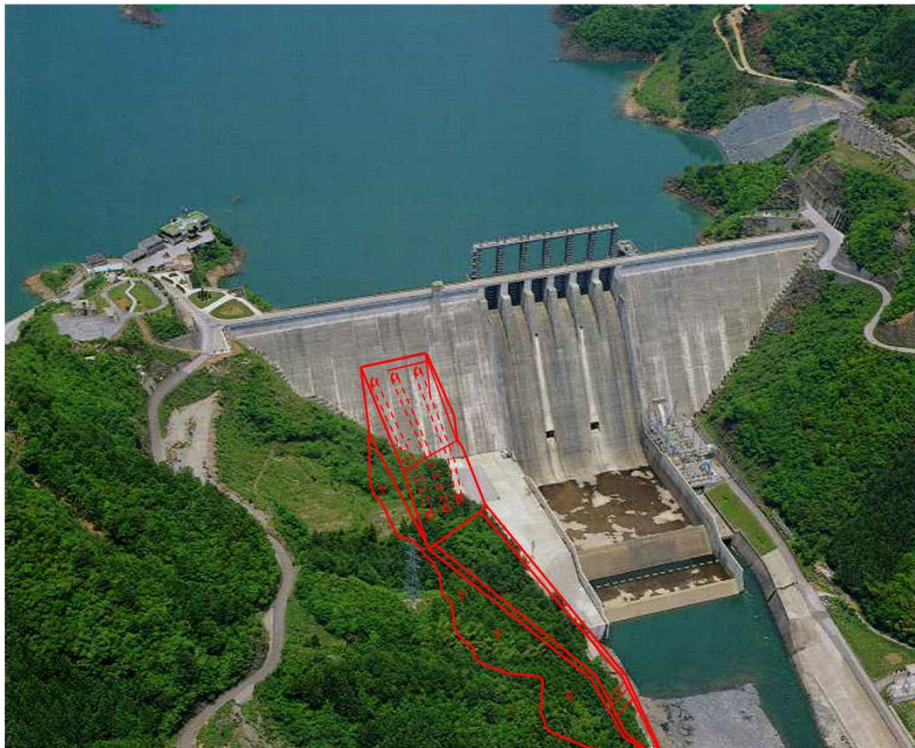
平成30年度当初予算 3億円



貯水池容量配分図



放流設備増設イメージ



理事長コメント

本日、早明浦ダム再生事業に関する事業実施計画が、国土交通大臣に認可されました。本事業は、水資源機構が実施する初めてのダム再生事業です。水資源機構では、認可を受けて速やかに事業実施のための体制を整備し、同計画に基づき平成30年度当初から事業に着手いたします。

本事業は、貯水池の容量振替や予備放流方式の導入により洪水調節容量を増大させるとともに、洪水時の放流能力増強のため放流設備の増設等を行うことにより、早明浦ダムの治水機能の向上を図ることを目的としています。

また、本事業は、河川改修等と一体的に実施されることにより、頻発する吉野川の氾濫による浸水被害の防止・軽減を図るものであり、沿川における安全・安心な社会の構築にとって非常に重要な事業です。

事業の実施に当たっては、関係機関との調整を図るとともに、水資源機構がこれまで培った技術と経験を活かして、現在運用中の早明浦ダムの管理を適切に実施し、再生事業の適正なコスト・工程管理を行うことにより、計画的かつ的確な事業の実施に努めてまいります。

平成30年3月30日
独立行政法人水資源機構
理事長 甲村謙友